



NOK GROUP

Corporate Profile



代表取締役社長

鶴 正雄



培ってきた技術力とノウハウで、 独自性に富んだ総合部品メーカーを目指します。

NOK株式会社は、わが国初のオイルシールメーカーです。NOKの高度なシール技術から生み出されるオイルシールをはじめとする機能部品は、自動車をはじめ、建設機械や農業機械、電子機器、事務機器、住設機器などに使われ、陰ながら社会や暮らしを支えています。

また、わが国初のフレキシブルプリント基板 (FPC) メーカーとして、電子機器の小型・軽量化、高機能化、高性能化に大きく寄与しております。そして、さらなる発展を期して、複写機に使用されるロール事業に進出しました。

私たちNOKグループは、これら事業の基盤となるシール技術、FPC技術、ロール技術のより一層の向上を図り、より強く、より独自性に富んだ部品メーカーになることを目指しています。また、営業から製造までコスト削減を徹底し、その上で品質向上のための自己研鑽を重ねてまいりました。「技術に裏打ちされた独自性のある、かつ

社会に有用な商品を生産し、世界中で安くつくり適正価格で売る」ことにより、高い収益力を持つ強い企業——言い換えますと、お客さま、株主、従業員、さらにはサプライヤーなどすべてのステークホルダーの方々に誇りを持っていただける企業——になることが私たちの夢です。

また、次世代へこの自然環境を残すためにも、環境問題への対応を極めて重要な経営課題の一つと位置付けて、環境経営を推進しております。NOKグループはSDGsの考え方を尊重し、良き企業市民として社会的責任を着実に果たしていきたいと考えています。

1941年に神戸で産声を上げた町工場は時を経て、大きく枝葉を茂らせ、独自性のある企業に育ちました。そして現在、夢を追いつけるNOKの企業風土は脈々と息づいています。「偉大なる部品メーカー、偉大なる町工場」。この評価を誇りとして、さらなる“夢追い経営”を実践していきたいと思っております。

経営理念と経営方針

NOK株式会社は、NOK精神に基づく経営理念のもと、すべての利害関係者、いわゆるステークホルダーに誇りをもってもらい、ともに夢を追いつけることのできる経営を以下の経営方針で推進し、公正かつ自由な競争のもと、社会に有用な付加価値および雇用の創出と自律的で責任ある行動を通じて、持続可能な社会の実現を牽引する役割を担う存在であることを目指します。

経営理念

- 1 愛情と信頼に基づく人間尊重経営
- 2 派閥の無い強固な団結による風通しのよい経営
- 3 超常識の努力を惜しまない逆境に強い経営
- 4 常に夢を求める計画経営

経営方針

- 1 経済資源を重点分野に集中させ、より強く、より独自性に富んだ部品メーカーになること
- 2 営業第一線から製造現場まで、コスト削減を徹底し、収益体質をより強固なものとする
- 3 品質向上のための研究を重ね、技術に裏打ちされた独自性のある、かつ社会に有用な商品を生産・販売すること

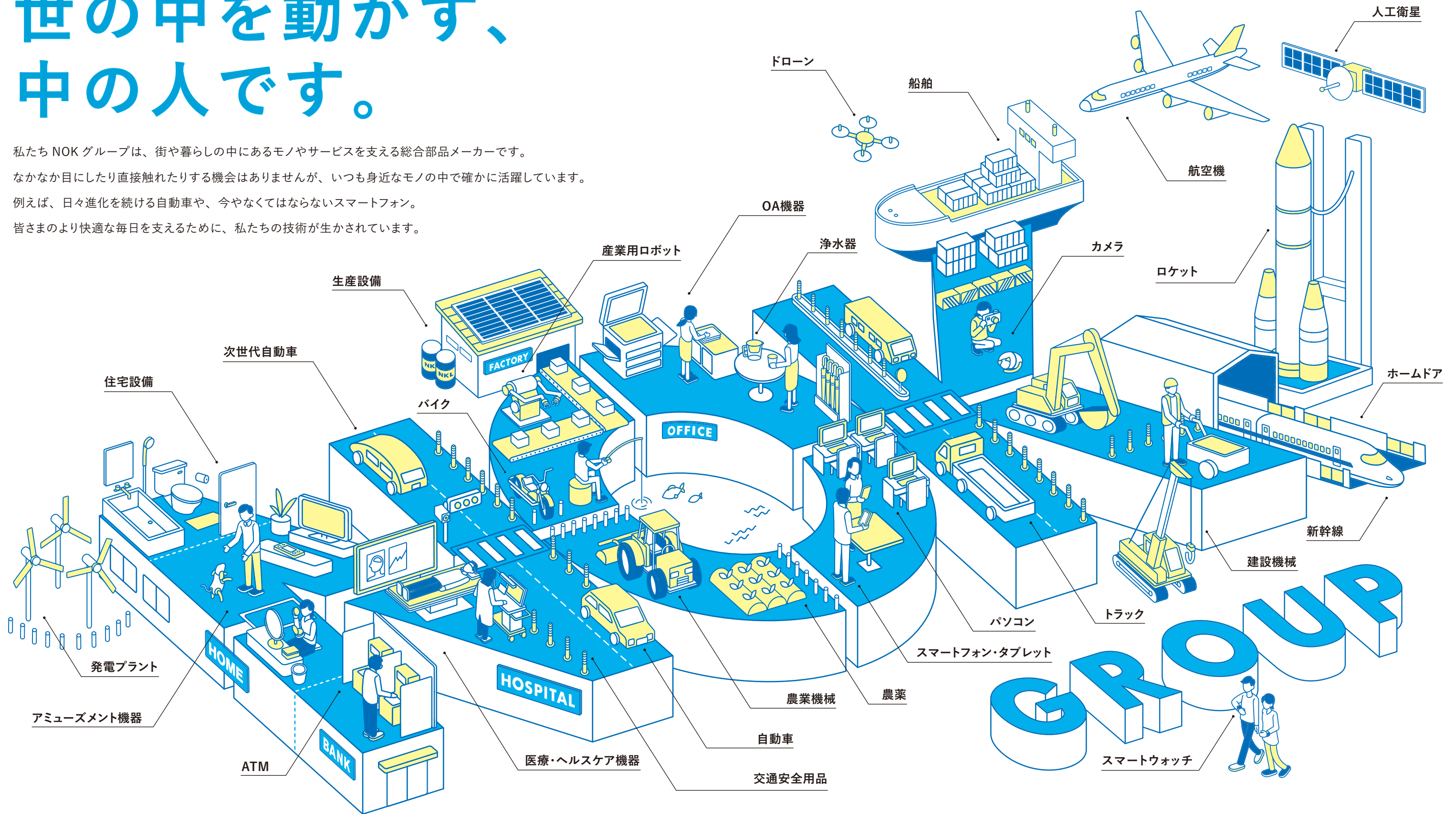


Contents

ごあいさつ	■イーグル工業株式会社[シール]	研究・開発体制
経営理念と経営方針	■日本メクトロン株式会社[電子部品]	CSR活動
暮らしを支えるNOKグループ	■シンジータック株式会社[ロール]	NOKグループの歩み
事業紹介	■NOKクリューバー株式会社[特殊潤滑剤]	グローバル展開するNOKグループ
■NOK株式会社[シール]	■ユニマテック株式会社[化学合成品]	会社概要
P1	P7	P15
P2	P9	P17
P3	P11	P21
	P13	P23
P5	P14	P25

世の中を動かす、 中の人です。

私たち NOK グループは、街や暮らしの中にあるモノやサービスを支える総合部品メーカーです。
なかなか目にしたり直接触れたりする機会はありませんが、いつも身近なモノの中で確かに活躍しています。
例えば、日々進化を続ける自動車や、今やなくてはならないスマートフォン。
皆さまのより快適な毎日を支えるために、私たちの技術が生かされています。



暮らしを支える NOKグループ

■ NOK株式会社 [シール] 東証1部上場
1941年創業。ゴム・樹脂の材料開発、加工をコア技術とし、自動車をはじめ、さまざまな産業分野で使われるオイルシールやOリング、パッキンなどを製造・販売しています。

■ イーグル工業株式会社 [シール] 東証1部上場
1964年、NOKのメカニカルシール部門が独立して誕生。シール技術、特殊溶接技術、動力伝達技術、バルブ技術を柱とし、金属製のシール製品などを製造・販売しています。

■ 日本メクトロン株式会社 [電子部品]
1969年にNOKグループの電子部品事業を担う会社として誕生。フレキシブルプリント基板 (FPC) や精密ゴム・樹脂部品の製造・販売を行っています。

■ シンジーテック株式会社 [ロール]
2007年に設立され、NOKグループのロール事業を担当。複写機などの事務機器に使われるロール製品全般を製造・販売する、業界唯一の企業です。

■ NOKクリューバー株式会社 [特殊潤滑剤]
1976年にドイツの特殊潤滑剤メーカー・クリューバー社との合併により誕生。自動車、産業機械、家電などの幅広い分野に製品を供給しています。

■ ユニマテック株式会社 [化学合成品]
1971年に設立された化学メーカー。特殊合成ゴムやフッ素化学合成品など、独創性の高い製品の研究・開発・生産を行っています。

NOK株式会社 (NOK) は1941年に創業した、日本で初めてのオイルシールメーカーです。自動車をはじめ、多くの機械で使われる密封装置 (オイルシール、Oリング、パッキンなど) を製造しています。創業以来、多くの研究・開発を積み重ね、オイルシールでナンバーワンの企業へと成長を遂げました。



NOKの歴史は、日本のオイルシールの歴史

いち早くゴム製オイルシールを生産
創業当時、日本では機械のオイル漏れを防ぐために革製パッキンが使われていました。そのため安定した密封性能が得られず、ガレージにはいつも漏れたオイルの臭いが立ち込めていました。そこで1942年、NOKは密封性能に優れたゴム製のオイルシールの製造を開始。1954年には羽田に本社工場を建設して量産をスタートさせ、均一の品質で製品を供給できるようになりました。また、オイルシールの独自研究にも着手し、1959年には「オイルシールの摩擦と密封に関する潤滑原理」を発表するなど、今日のNOKの礎が築かれました。

フロイデンベルグ社との技術提携
1960年、西ドイツのカール・フロイデンベルグ社 (当時) との技術提携をきっかけに、NOKの新たな歴史が動き始めます。さらに同年、藤沢工場の竣工を皮切りに、静岡工場、福島工場、熊本工場と次々に生産体制を拡充。高品質な製品を安定して供給できる体制を築くことに成功しました。こうして、NOKは市場が求める製品を生み出す先見性と技術力を磨き上げ、国内外での実績を積み重ねることで、日本を代表するオイルシールメーカーへと発展しました。

他社に先駆けてグローバルに展開
アメリカに進出している日本の自動車メーカーがまだ1社だった1979年。NOKは他社に先駆けて現地生産工場を建設すると、現地の自動車メーカーにオイルシールの供給を開始しました。これはNOKの高い技術力や安定した供給力、そして積み上げてきた信頼なしでは成し得ないことでした。その後、シンガポール、中国、タイ、インドネシア、インド、ベトナムなどに生産拠点を確立。日本だけでなく世界中のお客様のニーズに応じた、安定した供給体制を構築しました。

主な製品

オイルシール

オイルシールとは、オイル (油) をシールする (封じる) 機能部品です。合成ゴム、金属環、バネで構成され、機械の軸の“すきま”から油が漏れるのを防ぐほか、外部からの塵や埃の侵入を防ぐ役割があります。

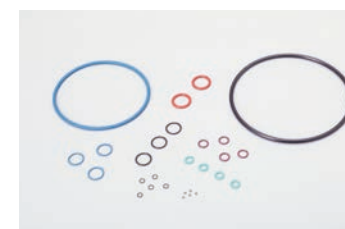


主な用途

自動車、建設機械、農業機械、鉄道車両、製鉄プラント、産業用ロボット、航空機、船舶、事務機器、家電製品など

Oリング

断面がO形のゴム製環状パッキンです。機器の溝部に装着して適度に圧縮し、油、水、空気、ガスなどさまざまな流体の漏れを防ぎます。



主な用途

自動車、建設機械、農業機械、配管継手、防水携帯電話など

アイアンラバー製品

アイアンラバーはゴムとプラスチックの中間の性質をもち、耐摩耗性、衝撃・振動吸収性に優れています。機器の往復運動部に使われるパッキンや、高耐久性が求められる交通安全用品など、多数の製品をラインアップしています。



主な用途

建設機械、自動車、半導体製造装置、食品製造機械、交通安全用品など

防振・防音ゴム製品

自動車エンジンのクランク軸の振動を低減するトーションシャフトや、乗用車やトラックなど後輪・四輪駆動車のプロペラシャフトを支えて振動を吸収・遮断するセンターベアリングサポートなど、さまざまな防振・防音製品があります。



主な用途

自動車エンジンのクランク軸、後輪・四輪駆動車のプロペラシャフトなど

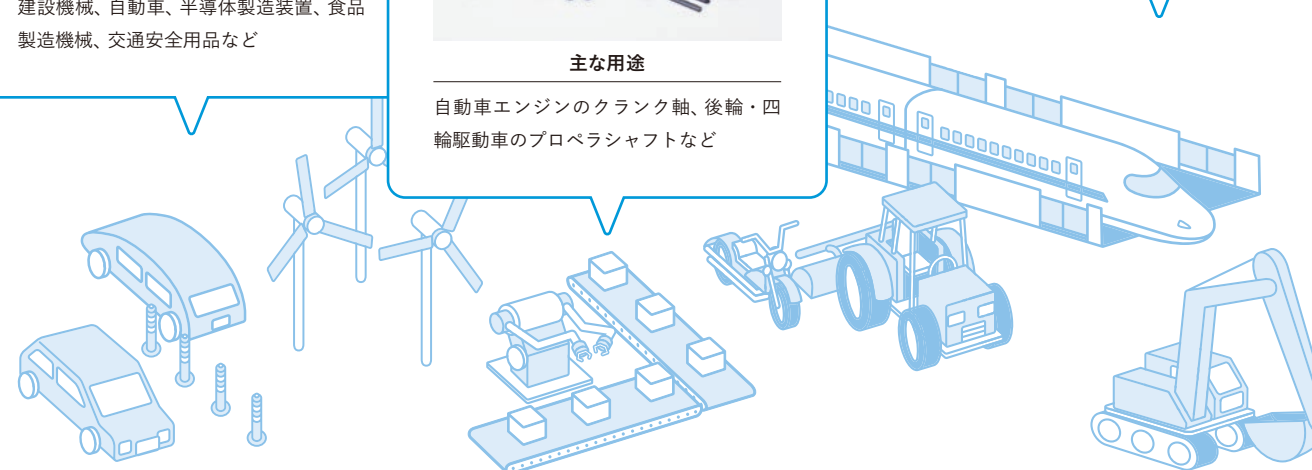
工業用ゴム製品

ダストカバーやブーツ、ダイアフラムなど合成ゴムを使った工業用機能部品。ゴム単体品や金属・樹脂のゴム焼付製品など、多種多様な製品をラインアップしています。

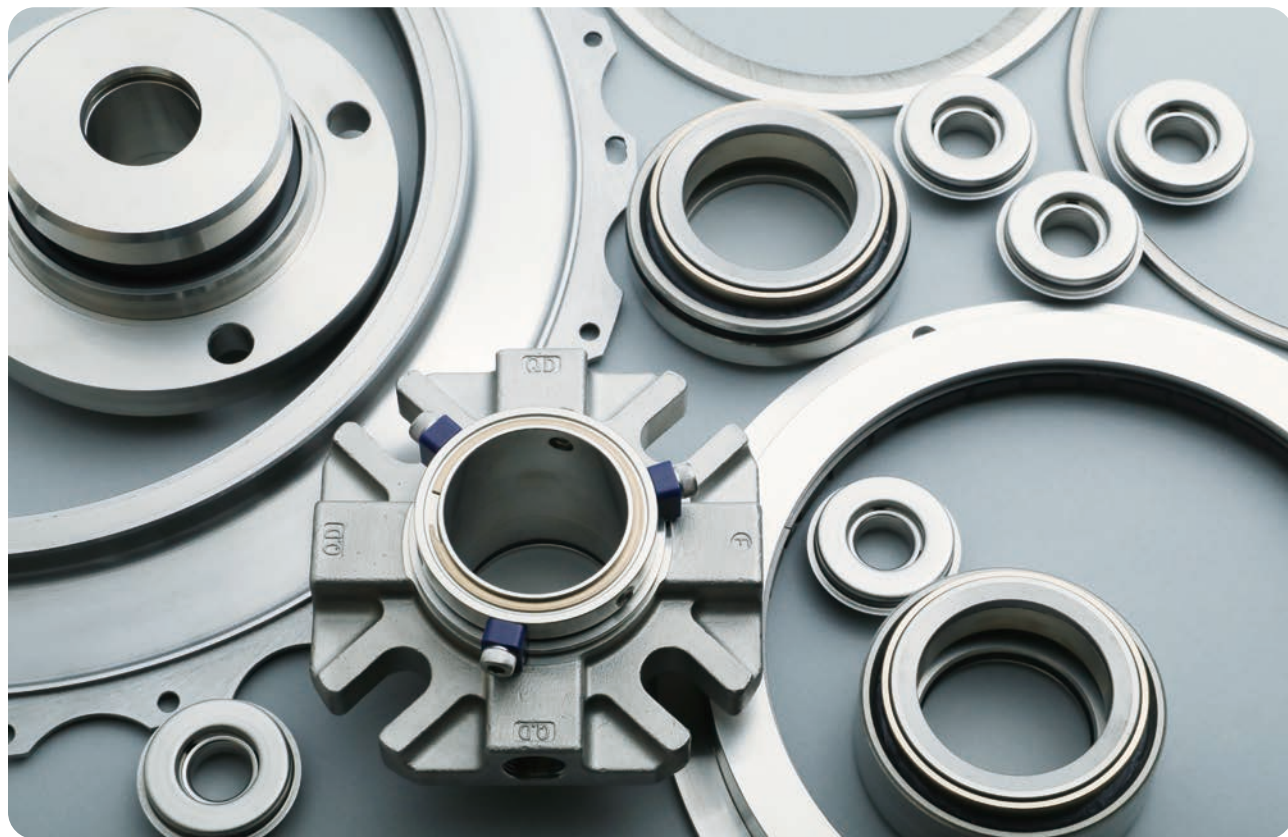


主な用途

自動車のサスペンションやステアリング、住宅設備など



イーグル工業株式会社 (EKK) は、1964年にNOKのメカニカルシール部門が独立して誕生しました。過酷な条件下でも安定した機能を発揮するメカニカルシールを製造・販売し、小型ポンプからロケットまで、世界中のさまざまな産業分野で欠かせない存在となっています。



メカニカルシールのリーディングカンパニー

NOKから独立したメカニカルシール部門

メカニカルシールの製造を行うイーグル工業株式会社 (EKK) は、1964年に日本シールオール株式会社として誕生しました。1978年には現社名へと変更し、今日に至ります。EKKが扱う技術分野は、シール技術、特殊溶接技術、動力伝達技術、バルブ技術などがあります。これらの技術を基礎として、製品の素材開発から製造まで一貫した生産システムを構築しています。EKKの製品群の中でも、各種メカニカルシール、船用製品、特殊バルブは性能・品質ともに高い評価をいただいています。

自動車からロケットエンジン、原子力発電プラントまで

メカニカルシールは金属製のシール製品で、機械内部の油やガスなどの流体が軸部分から漏れ出るのを封じるほか、塵や埃などの侵入を防いで機械を保護する役割があります。これにより、機械の性能向上と環境保全にも貢献しています。特にEKKのメカニカルシールはさまざまな分野で使われ、自動車や産業機械はもちろん、航空機やロケット、半導体製造装置、船舶、原子力発電プラント、住宅設備に至るまで、社会全体ひいては未来の産業を力強く支えています。

無限の可能性を秘めた製品で未来の産業を支える

機器の性能向上に伴い、高温化、高圧化、高速化といった過酷な環境変化に耐え得る製品の開発が求められるようになりました。また、環境対応や省エネルギー促進といったグローバル規模でのさまざまな課題を解決するためにも、メカニカルシールのさらなる技術革新が待ち望まれています。EKKは長年にわたり積み上げてきた技術力を生かし、時代のニーズにいち早く応えるメカニカルシールのリーディングカンパニーとして、今後も使命を果たしていきます。

主な製品

メカニカルシール

自動車をはじめ、各種発電から石油精製・石油化学・産業プラント用まで、高速、高温、高圧などのさまざまな使用環境に対応したメカニカルシールを製造しています。



主な用途

自動車のウォーターポンプ、EV用モーター、各種プラントのポンプ、タービン、攪拌機、コンプレッサーなど

航空機・ロケット用シール

航空機やロケットエンジンなどに使用され、極低温、超高温、真空中といった厳しい条件下でも安定して機能する気密性の高さを確保しています。



主な用途

航空機のジェットエンジン、ロケットのエンジンや燃料タンクなど

ソレノイドバルブ

自動車の圧力制御や流量制御に使われる電磁弁です。コンパクト化・軽量化を図りつつ、耐久性に優れた設計を実現しています。ON-OFFソレノイド、Dutyソレノイド、リニアソレノイドなど全種類の対応が可能です。



主な用途

自動車のエンジンやトランスミッション、ショックアブソーバ、カーエアコンなど

半導体製造装置用シール

真空やクリーン環境を必要とする半導体製造装置に欠かせない、磁性流体シール、溶接金属ベローズ、ロータリージョイント、エラストマーシールなどの高機能製品をすべて内製しています。

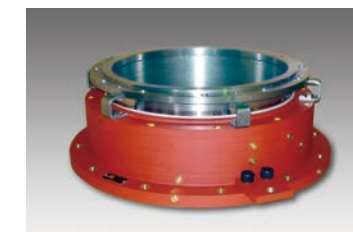


主な用途

半導体製造装置、FPD製造装置、太陽電池パネル製造装置など

船尾管シール

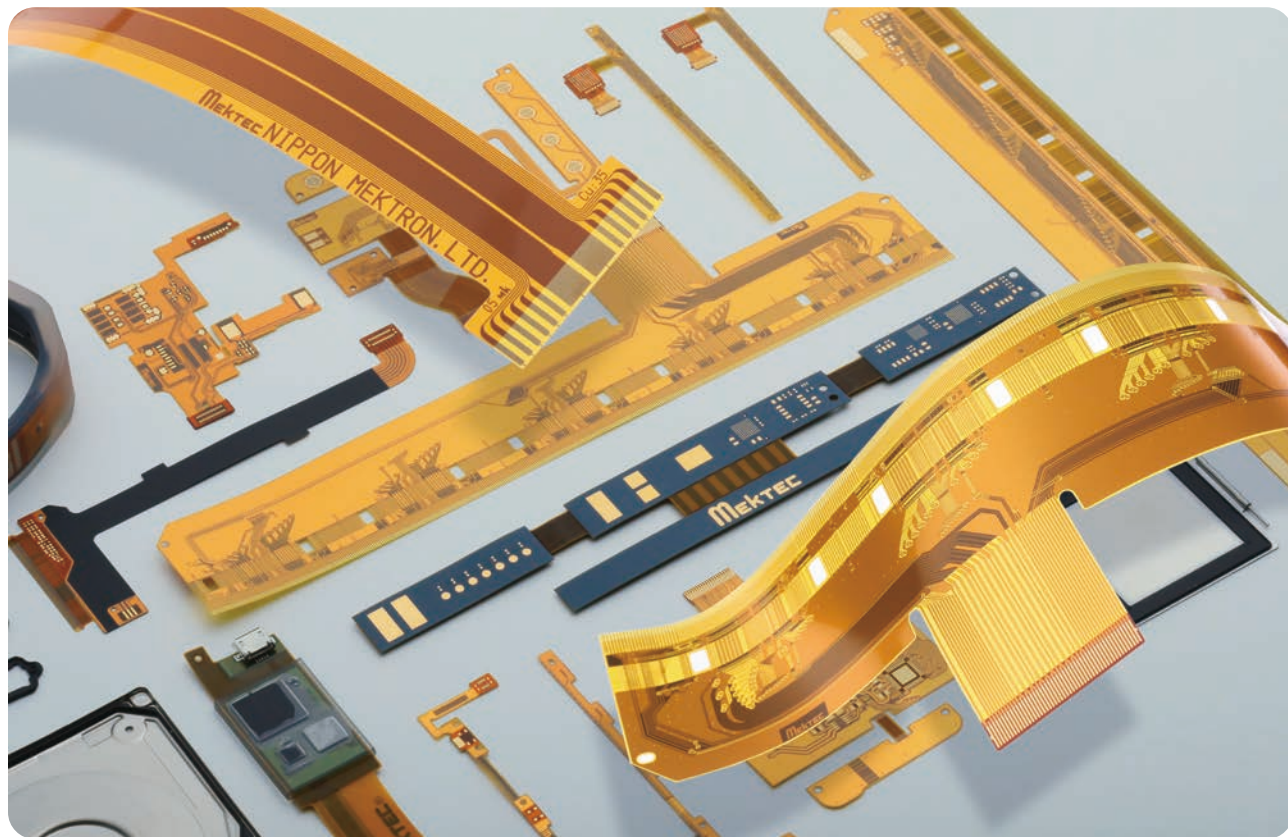
船体部品のひとつであるプロペラ軸の船外側と船内側に設置され、海水の船内浸水と油の船内外漏えいを防ぐシールです。独自開発のゴム材料や構造設計技術、シール技術を用いて製造され、安全航行や海洋汚染防止に貢献しています。



主な用途

豪華客船、大型タンカー、掘削船、漁船など、大小さまざまな船舶の船尾管

日本メクトロン株式会社 (MEK) は、NOKグループの電子部品事業を担う会社として設立されました。薄型・軽量かつ柔軟性の高い電子基板である、フレキシブルプリント基板 (FPC) を開発・製造しています。さまざまな電子機器に使用されるFPCの研究・開発を重ねながら、より便利で快適な生活の実現を目指しています。



電子社会を支えるグローバル企業を目指して

FPCの夜明け前

1969年、NOKはアメリカのロジャース社との間で電子回路製造に関する技術援助契約を締結しました。これを機に、日本メクトロン株式会社 (MEK) が設立され、FPCの製造が本格的にスタートしました。当時、FPCは一般的にほとんど認知されていない最先端のテクノロジーでした。その状況を一変させたのが、後世に残る名機といわれるフル電子制御の一眼レフカメラの登場です。重要な電子部品のひとつとしてFPCが採用されたことで、技術者たちの注目を集めるようになりました。まさにFPCの実用化は、電子機器の新しいステージの始まりを予感させるものでした。

億回単位の屈曲性能を実現

FPCが一眼レフカメラに採用されて以来、その研究・開発が一層進み、さらなる可能性が広がりました。中でも特筆すべきは、コンピューターのハードディスクドライブ (HDD) への採用です。超高速で回転するディスクの上を高速で移動し、信号を読み取る磁気ヘッド。その磁気ヘッドを支えるアーム部で使われるFPCには、億回単位の屈曲性能が求められます。これを支えたのが、MEKの材料技術でした。その過酷な使用状況にも耐えるMEKのFPCは、一躍コンピューター業界でも注目を浴びるようになりました。

進化し続ける電子社会を支える

電子機器の小型・軽量化に貢献してきたMEKのFPCは、今や欠かせないスマートフォンから次世代自動車まで、あらゆるところで社会や暮らしを支えています。また、グローバルブランド「MEKTEC」を展開し、世界各地の製造・販売拠点より世界中に各種FPCを供給。材料開発からFPCモジュールの製造に至るまで、多様なニーズに柔軟に応える体制を構築しています。これからも、たゆまぬ技術革新と徹底した品質管理に努め、電子社会を支えるグローバル企業を目指します。

主な製品

片面FPC

片面のみに回路があるFPCです。「薄くて柔らかい」というFPCの特性を最も発揮できる構造で、繰り返し屈曲に強く、稼働部での省スペース配線が可能です。狭い隙間での立体配線にも適しています。



主な用途

HDD、デジタルカメラ、メディアプレーヤー、ゲーム機など

両面FPC

回路を両面化したFPCです。片面FPCに比べて複雑な配線が可能で、部品を裏表に搭載できるため、省スペース化、小型・軽量化に貢献します。また、自由に曲がる特性から多彩なデザインにも対応できます。

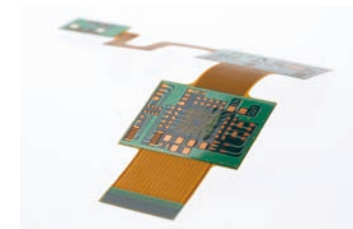


主な用途

デジタルカメラ、スマートフォン、自動車、医療用機器など

多層FPC

回路を多層化することで、高機能化および小型・軽量化を実現したFPCです。一体式の基板とケーブルは接続コネクタが不要なため、省スペース化に貢献しています。



主な用途

デジタルカメラ、ビデオカメラ、スマートフォンなど

実装FPC

FPCは非常に薄いフィルム状であるため、特有の実装工程が必要となります。MEKは、FPC単体の製造だけでなく、半導体や微小チップ部品、コネクタなどの実装も行い、FPCモジュールユニットの要望にも対応しています。



主な用途

HDD、デジタルカメラ、スマートフォン、自動車など

精密ゴム・樹脂部品

HDDやスマートフォンの内部や外装に組み込み、水や埃などの浸入を防ぐ部品です。これらの開発・製造で培ってきた技術を生かし、FPCにゴム・樹脂を実装 (モールド) して防水・耐衝撃性 (保護) 機能を付加した製品もあります。



主な用途

HDD、スマートフォンなど



ロール事業を担うシンジーテック株式会社 (SZT) は、複写機やプリンターなどの事務機器用の高機能ロールを製造しています。高い製造技術と信頼性をもとに、繊維機器や金融端末機器向けの製品も供給。先進技術と卓越したノウハウで幅広い業界に貢献しています。



事務機器の「入口から出口まで」をカバーする唯一の存在

**業界唯一の存在として
ナンバーワンのサプライヤーを目指す**
シンジーテック株式会社 (SZT) は、事務機器用の機能部品メーカーである北辰工業株式会社と日東工業株式会社の合併により、2007年に誕生しました。両社の技術統合で、事務機器の「入口から出口まで」をカバーする事務機器用機能部品メーカーとして業界唯一の存在に。今後もSZTは、NOKをはじめとするグループ各社との技術融合を基盤とした次世代技術の研究・開発に積極的に取り組み、業界をリードする「オンリーワン & ナンバーワンサプライヤー」を目指していきます。

**独自技術から生まれた製品で
業界をリード**
複写機の性能を左右する感光体周辺部にはSZTのロール製品が数多く使われており、これらの製品には極めて高い精度が要求されます。また、高機能・高耐久性が求められる定着部にも採用されており、特に、環境問題に配慮したIH定着方式の分野では、SZTの独自技術から生まれたミニセル®ロールが業界をリードしています。SZTは、材料開発のノウハウやユニークな製品の企画・設計、生産技術により、数々の製品を世に送り出し、機器の技術革新に貢献しています。

**これまでも、これからも
ベスト・グローバル・パートナー**
変革の波が押し寄せる事務機器市場では、お客さまの求める製品・サービスの質が年々高まっています。SZTはそうしたニーズに応えるため、独自のコア技術を組み合わせることで画期的な製品ラインアップとサービスの提供を実現しています。また、現地調達を可能にする海外生産・サポート体制を築くことで、他社の追随を許さない事業展開を実現してきました。これからもお客さまにとっての「ベスト・グローバル・パートナー」として、技術進化に貢献できるよう努めていきます。

主な製品

現像ロール・帯電ロール

現像ロールは一定量のトナーを感光体に搬送するために使用され、帯電ロールは感光体に一定電荷を付与するために使用されます。高い精度で導電性をコントロールした製品です。



主な用途

事務機器の感光体周辺部

定着ベルト・加圧ロール

定着ベルトは優れた熱伝導性、発熱性を有する金属とゴムの複合ベルトです。加圧ロールは、トナーを定着させる際に均一な圧力を加えるために使用されるロールです。長期にわたって安定した定着性能を維持することが可能です。



主な用途

事務機器の定着部

クリーニングブレード

感光体、ロール、ベルトなどの表面に付着した残留トナーや異物を除去する製品です。耐摩耗性に優れ、温度変化にも強く、環境変化に対して安定したクリーニング性能を発揮します。



主な用途

事務機器の感光体周辺部

金融端末機器用製品

ATMなどの金融端末機器に使用され、高い信頼性が求められる製品です。高性能ウレタンゴムに糸と織布を複合した紙幣搬送ベルトや、高い耐久性を誇る札たきゴムなどがあります。



主な用途

ATM、キャッシュディスペンサーなど

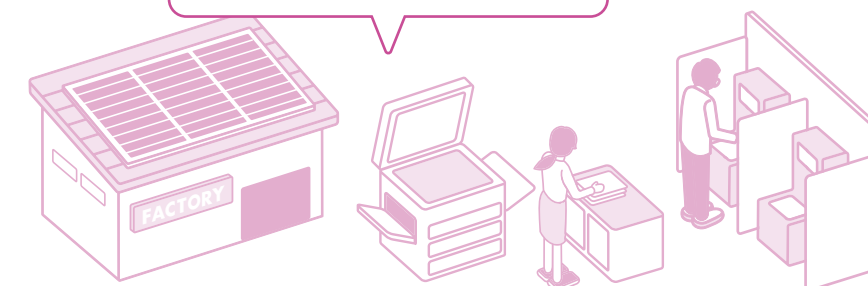
繊維機器用製品

繊維機器で使われるロール・ベルト製品です。繊細で丈夫な糸を紡ぐ高品質の紡績用エプロンバンドや、加工糸製品の風合いを表現する仮燃機用ポリウレタンディスク、DTYエプロンバンドなどを用意しています。



主な用途

各種仮燃用機器、紡績機械など



NOKクリューバー株式会社 (NKL) は、NOKとドイツの特殊潤滑剤メーカーであるKlüber Lubrication München SE & Co. KG (クリューバー社) との合併により誕生しました。「潤滑剤は消耗品ではなく、重要な機能部品である」という理念に基づき、高温、低温、高速、高荷重などの過酷な使用条件にも耐え得る豊富な製品を提供しています。

主な製品

オイル

潤滑性、耐熱性、耐酸化性に優れ、機械の長寿命化、効率向上をもたらす高性能オイルです。大型プラント、精密機械、食品機械、半導体製造装置など、さまざまな分野に適した製品がそろっています。



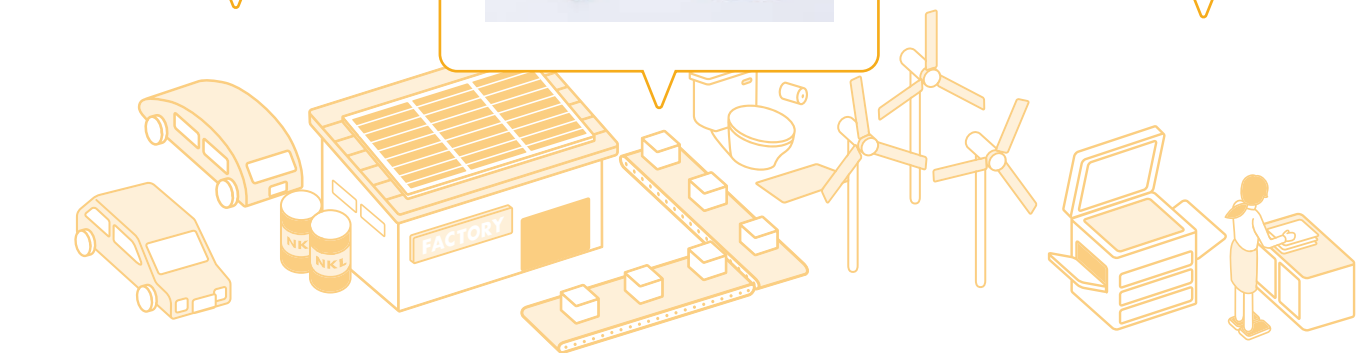
コーティング

金属部品の表面に処理することにより、グリースやオイルが使用できない環境でも優れた潤滑性、耐摩耗性、非粘着性、絶縁性などを発揮します。自動車、家電製品、事務機器など、さまざまな分野で活躍しています。



グリース

高温、低温、高速、高荷重など過酷な使用環境下でも耐え得る、信頼性の高い長寿命グリースです。自動車、産業機械、家電製品、事務機器、食品機械、半導体製造装置など、さまざまな分野で使用されています。



潤滑剤は消耗品ではなく、重要な機能部品のひとつ

長年培ってきた固有技術で、幅広い市場のニーズに応える

NOKクリューバー株式会社 (NKL) は創業以来、日本の産業発展とともに成長してきました。NOKとドイツのクリューバー社が長年培ってきた固有技術を基礎に、工作機械などの産業機械、自動車、家電製品、半導体製造装置に至るまで、それぞれのニーズに合った製品を開発し、性能・品質ともに高い評価をいただいています。

また、高い安全性が要求される食品機械向けの潤滑剤や、風力発電設備、エコカー向けの環境に優しい潤滑剤など、さまざまな高

機能潤滑剤の開発を通して、効率・性能の追求のみならず、社会の安心・安全に貢献しています。

さらには、設備や機械の信頼性と生産性の向上、メンテナンスコストの削減などにつながる包括的なサービスを提供し、お客さまの潤滑に関する問題の解決をサポートしています。

NKLは、今日までに蓄えられた数多くの知識と経験、技術に基づき、これからも潤滑分野におけるさまざまな課題に挑戦し続け、市場のニーズを先取りした製品を開発していきます。

ユニマテック株式会社 (UMT) はゴム材料の研究・開発、生産を担うべくスタートしました。UMTの「ユニークマテリアル&ユニークテクノロジー」から生み出される化学合成品は、自動車や工業用品などのさまざまな分野で幅広く活躍しています。

主な製品

ノックスタイト

耐油性、耐熱性、強度、圧縮永久ひずみ特性など、機能バランスに優れたアクリルゴムです。オイルシールやOリングの材料のほか、自動車のエンジン周辺など耐熱性や耐油性が求められる機器に使用されています。



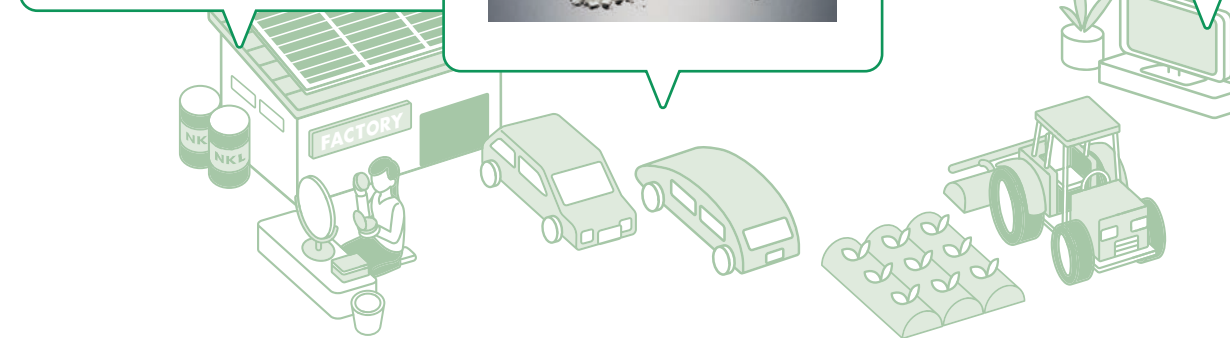
ケミノックス

ゴム添加剤とフッ素化学品を基軸とする製品で、粉体、液体、気体といった多様な形状があります。ゴム・樹脂の原料、改質剤などに応用され、素材の新たな可能性を引き出します。



ノックスバリアー・ノックスフリー

金属、樹脂、ガラスなどの固体表面に処理することで、油脂類や水などの付着・拡散を防止し、撥水・撥油性、防錆性、離型性などを付与することができるフッ素系表面処理剤です。



ユニークマテリアル&ユニークテクノロジーで未来を拓く

優れた研究・開発能力で、世界の高分子材料の市場をリード

ユニマテック株式会社 (UMT) は、NOKの優れた研究開発力を受け継ぎ、環境に優しいさまざまな化学合成品を生産しています。中でも、アクリルゴムであるノックスタイトは、国産化から50年以上が経った今でも進化を続け、自動車業界をはじめとする各産業界のあらゆるニーズに応えています。

また、フッ素系・有機系化学製品のケミノックスは、独創性の高い技術により開発されたものです。重合用モノマーや架橋剤、ノックスバリアー・ノックスフリーをはじめとする表面処理剤

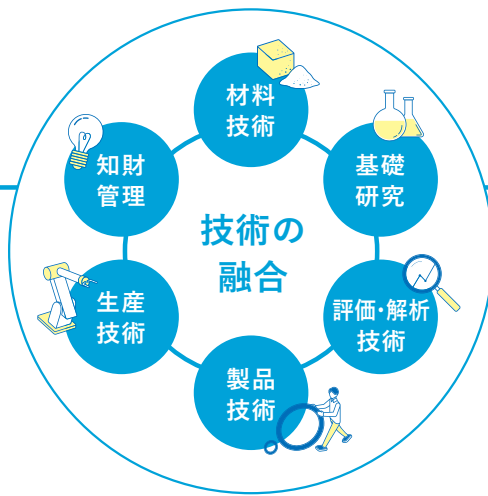
など、数多くのオリジナル製品がラインアップされています。UMTは、今後もNOKのコア事業であるシール製品用の特殊合成ゴムを提供するとともに、フッ素化学技術、高分子材料技術を生かした新たな製品を研究・開発し、高性能かつ安定した品質の製品を全世界に提供し続けます。そして市場ニーズの飽くなき探求、ユニークな発想と技術によって、高品質な製品の開発に励んでまいります。

研究・開発体制

創業以来、NOKグループの製品がさまざまな産業分野から支持されてきた理由は、常に製品の品質を向上させてきた技術力の高さにあります。より便利な社会の実現や環境問題の解決に貢献するために、今後もさらなる技術開発に取り組んでいきます。

常に一步先の技術開発を推進

NOKは1940年代にオイルシールやOリング、ゴムパッキンなどの生産を開始。それ以来、潤滑機構の考察、密封現象の把握、密封メカニズムの推定、ロバスト設計への展開、可視化技術の構築など、常に業界をリードする技術を生み出してきました。また材料技術においても、材料配合設計や接着剤の開発、物理・化学分析を自社で行い、時代の一步先を行く技術開発を推進してきました。今日では新素材による高速複写機用ロールなどさまざまな製品開発を通して、新たな技術の提案を積極的に行っています。



NOKグループの力を結集し、より高度な技術開発を

近年、ますます関心の高まる自動車や建設機械、産業機械の環境対応。その流れにおいても、NOKグループはハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車など次世代自動車に向けた部品の開発・供給を行い、お客さまから高い評価と信頼をいただいています。今後もNOKグループの力を結集し、より高度な研究・開発を重ねることで、自動車、建設機械、農業機械、電子機器、航空宇宙機、船舶、事務機器、家電製品などの幅広い分野において、お客さまに満足いただける製品とサービスを提供していきます。



湘南開発センター

NOKグループの技術の総本山として2005年に開所しました。グループの製品に関する基盤技術の検討、高度製品評価、検査・成形機開発、材料・接着剤開発、CAD・解析技術開発などを行っています。

NOK
NOK株式会社 湘南開発センター
NOK CORPORATION SHONAN R&D CENTER

NOK株式会社 /NOK[シール]

シールの基盤技術

NOKの技術開発の歴史は「現象の推定と確認の飽くなき追求」の歴史です。メカニズムを検証する技術のひとつとして、オイルシールと回転軸との摺動面における油膜の状態を確認するための可視化技術などを開発しました。これによりNOKは世界で初めて油の流れを可視化することに成功し、理論と実際の差異検証精度を飛躍的に向上させました。また、金属製压力容器内部の部材挙動の可視化のほか、ゴム金型内の材料流動の解析や、音振動の解析なども行っています。常に先端技術を取り入れた材料分析やNOK独自の評価装置の開発を行い、製品機能の信頼性を向上させ、より安心・安全な製品の提供に努めています。

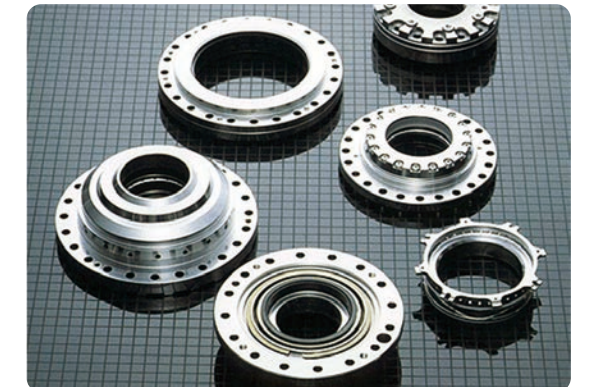


回転シール油膜可視化装置

イーグル工業株式会社 /EKK[シール]

航空・宇宙産業向けシール技術

EKKは、液体燃料ロケットエンジンのターボポンプシールを供給できる唯一の日本メーカーです。これまで日本のロケット開発の黎明期からH-IIA/B、H3ロケットまで、すべての開発に関わっています。日本のロケットエンジンは液体水素と液体酸素を燃料とする究極のクリーンエンジンですが、その心臓ともいえるターボポンプは高圧高速で極低温と超高温が同居する過酷な環境にあり、水素と酸素の接触を完全に防がなくてはならず、高い信頼性が求められます。



ロケット用ターボポンプシール

日本メクトロン株式会社 /MEK[電子部品]

最先端機器に対応する技術開発

1960年代、FPCはアメリカで航空機やロケット、軍需品などに使用されていました。そして1970年代、小型化・薄型化が求められる光学一眼レフカメラなど、一般用途に転用されるようになると急速に普及。今ではスマートフォンなど最先端の機器に欠かすことのできない電子部品として多く採用されています。こうした電子機器の小型化・高機能化を支えるため、MEKは薄型化、高耐熱化、高密度化、高速伝送化といったFPCの技術開発を進めてきました。今後は自動車をはじめ、ウェアラブル機器、医療機器、ロボットなど発展が見込まれるさまざまな分野へ展開していきます。



生体情報センシング等での活用が期待される伸縮FPC

シンジーテック株式会社 /SZT[ロール]

高機能ロール技術

複写機には、高速での帯電・現像による高品質な画像の実現や高精度な搬送、さらには定着時の熱エネルギーロスの低減といった環境対応など、さまざまな技術が求められます。SZTでは電気抵抗制御ゴム使用の帯電ロール、耐摩耗ウレタン材使用のブレードなどの複写機用高機能材料・技術の開発をはじめ、電気鋳造スリーブ、ミニセル®使用の定着ロール、RUFASS®使用の給紙ロールなど、独自開発によるさまざまな技術や材料を活用。高機能・高耐久かつ環境問題に対応できる製品の開発を行っています。



ウレタン注入成形

CSR活動

企業としての社会的責任を果たし、すべてのステークホルダーの皆さまとの関わりを大切に、地域・社会貢献活動を行っています。また、次世代に美しい地球を残すため、従業員一人ひとりが環境問題を意識し、積極的に環境保全活動に取り組んでいます。



CSRの考え方

NOKグループは「NOK精神に基づく経営理念のもと、すべての利害関係者、いわゆるステークホルダーに誇りをもってもらい、ともに夢を追い続けることのできる経営を推進し、公正かつ自由な競争のもと、社会に有用な付加価値および雇用の創出と自律的で責任ある行動を通じて、持続可能な社会の実現を牽引する役割を担う存在であることを目指す」ことを企業行動憲章で定めています。

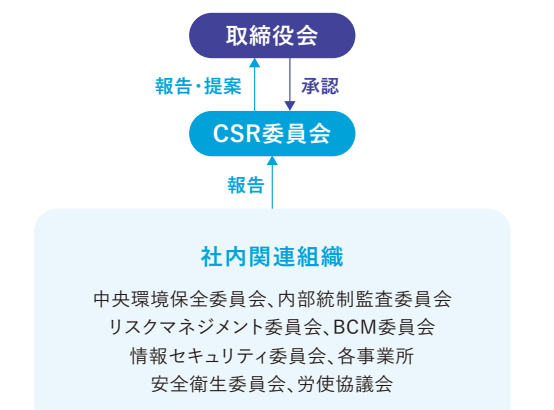
すべての事業活動は企業行動憲章（経営理念・経営方針・企業行動原則）を土台として行っています。そして環境保全、社会貢献、企業統治の各方面において、企業の社会的責任を果たすことは、事業活動の継続と一体のものであると考えています。

また、幅広い背景と状況を考察し、事業におけるリスクや機会を特定するためにも、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションが大切であると考えています。NOKグループは、利益だけでなく「誇り」をもたらすことのできる企業を目指しています。

CSR推進体制

「会社全体のCSR意識の向上と、より効果的なCSR活動の推進を図る」ことを目的とし、CSR委員会を設置しています。

CSR委員会は社内の関連委員会・各事業所から報告を受け、全社のCSR活動の取りまとめを行います。また、CSRレポートの発行など、対外的な情報発信を行います。



環境保全活動

事業活動に伴う環境への影響を考え、原材料や部品の調達、生産から廃棄に至るまで、環境に配慮した視点で製品を設計・製造しています。また、次世代社会も視野に入れ、具体的な目標と方針に基づき、環境保全活動に努めています。



NOK環境保全シンボルマーク

環境マネジメントシステム

ISO14001に準拠した仕組みを構築し、環境マネジメントシステムを推進。ものづくりを通じた環境負荷の低減に取り組んでいます。また、直轄の全事業場でISO14001を一括取得し、同一方針、同一目的・目標のもと、統一のとれた環境保全管理活動を行っています。

気候変動対策

製造部門では生産にかかるエネルギー削減のため省エネルギー設備を開発し、物流部門では輸送機器の使用燃料を削減するなど、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。また、全社的に再生可能エネルギーを導入するなど、製品ライフサイクル全体でCO₂排出量削減に努めています。

省資源とリサイクル

循環型社会を実現するため、3R（リユース、リデュース、リサイクル）活動を進めています。製品ライフサイクル全体を通して、原材料・水・エネルギーなど資源の効率的な利用、廃棄物の削減・再生資源化への取り組みを行うなど、持続可能な社会への貢献と企業価値の向上に努めています。

環境基本方針

- 従来の固有技術を踏まえ、環境保全に配慮した技術の向上・製品の開発を推進し、環境負荷の低減に努めます。
- 地球温暖化防止を図るため省エネルギーを推進し、循環型社会に対応して資源の再利用および再生資源化および廃棄物の削減を推進します。
- NOK中央環境保全委員会で目標を設定し、取引先を含む関係各社とも協力して継続的な環境負荷低減の改善を図り、化学物質の管理、地球環境汚染の防止および水環境インパクトの取り組み強化に努めます。
- 関連する法規制、地方自治体条例、地域協定等を順守し、環境保全活動を推進します。
- 業界や取引先の自主規制を順守し、ステークホルダーの環境への要求事項に対して積極的に取り組みます。
- 環境保全活動や社会貢献に関する情報を開示し、地域・社会とのコミュニケーションを図ります。
- 良き企業市民として全社員が生物多様性ならびに地球環境保全の重要性を認識し、地球環境への意識高揚を図るとともに環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。

NOK Twin Green Plan 2030

温暖化を抑制する目的で発効されたパリ協定や国連により採択された持続可能な開発目標（SDGs）を受け、NOKでは新たに『NOK Twin Green Plan 2030』を策定し、持続可能な社会の実現に向け、環境保全活動を推進します。

Green Factory

環境に配慮した生産の取り組みにより工場のCO₂排出量を2018年度対比で30%削減します。

関連するSDGs



- 従来に比べエネルギー消費20%削減の生産設備を開発します。
- 再生可能エネルギーの活用を積極的に推進します。
- 廃棄物の削減とリサイクル率100%を目指します。
- 水使用量の削減とクリーンな排水に取り組めます。
- 工程中の有害化学物質の管理と削減を徹底します。

Green Product

次世代エコ技術に貢献する製品の開発を推進します。

関連するSDGs



- 燃料電池などの次世代省エネ技術の普及に貢献する製品を開発します。
- 低燃費を実現する低摩擦技術の開発により環境負荷低減に貢献します。
- 水の再生（衛生的な水の供給と水循環）に貢献する機能膜を開発します。
- 製品中の化学物質の管理を徹底し環境品質を向上します。

社会貢献活動

事業場周辺での地域貢献活動や次世代教育に関わるイベントへの協賛など、さまざまな社会貢献活動を行い、すべてのステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切にしています。

次世代の教育支援

（公財）自動車技術会が主催する小学生向けの体験型学習イベント「キッズエンジニア」や「学生フォーミュラ日本大会—ものづくり・デザインコンペティション—」、(株)NHKエンタープライズ主催の「NHK学生ロボコン」「小学生ロボコン」に協賛しています。これらの取り組みを通して、NOKは未来のエンジニアを応援しています。



スポーツによる社会貢献

人々に夢や感動を与えるスポーツを通じて、社会に貢献していきたいという思いから、アスリート社員を雇用しています。また、協賛する「MINATOシティハーフマラソン」に社員もランナーとして参加しています。他にも、事業場がある地域のスポーツチームをサポートするなど、スポーツを通じて地域社会への貢献に力を入れています。



地域社会への貢献

NOKグループの各事業場では地域社会とのコミュニケーションの向上を目指し、地域のイベントや祭りに参加するなど、さまざまな取り組みを行っています。また、近隣住民を招待し、環境への取り組みに関する説明会を実施しています。さらには地域主催の環境美化活動や清掃活動など、ボランティア活動への参加を通じて地域社会に貢献しています。

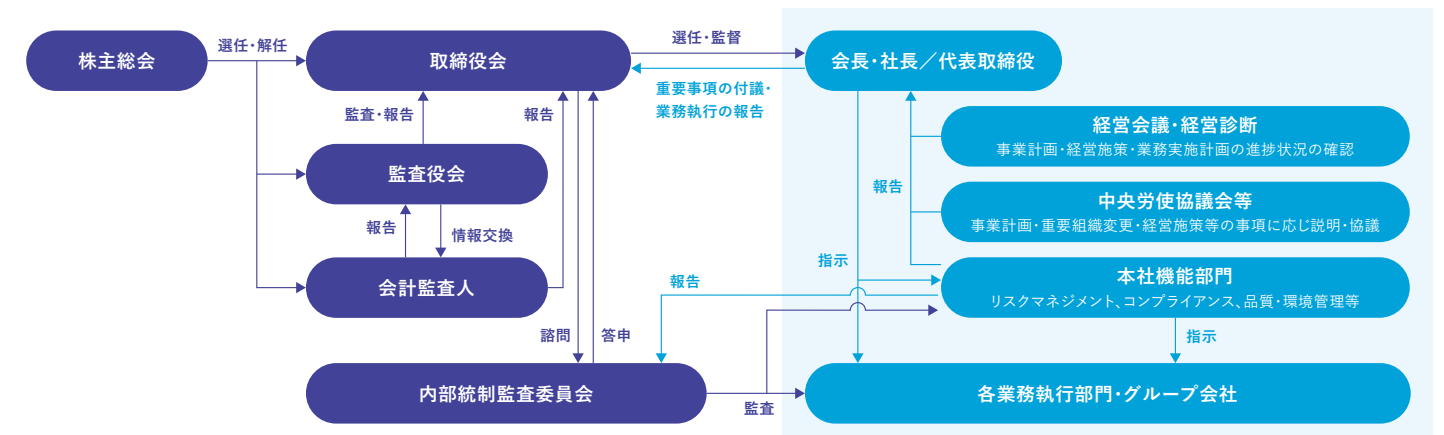


企業統治体制（コーポレート・ガバナンス体制）

NOKグループは、企業統治体制の継続強化を経営の重要課題のひとつとして取り組んでいます。NOKでは「監査役会設置会社」形態を採用しており、業務に精通した取締役が互いに連携して業務を遂行している一方で、社外取締役を含む取締役による相互監視と、社外監査役を含む監査役による経営の監査を行っています。

本社機能部門は内部統制システムのルールを定め、NOK業務執行部門および子会社に対して指示するとともに、内部統制監査委員会が定期的に内部統制システムの整備・運用状況を監査する体制としています。

■コーポレート・ガバナンス体制の模式図



NOKグループの歩み

■ NOK NOK株式会社[シール]
 ■ MEK 日本メクトロン株式会社[電子部品]
 ■ NKL NOKクリューパー株式会社[特殊潤滑剤]
■ EKK イーグル工業株式会社[シール]
 ■ SZT シンジーテック株式会社[ロール]
 ■ UMT ユニマテック株式会社[化学合成品]

- 1939 ■ NOK 東京に江戸川精機株式会社(資本金15万円)
(1942年に東京油止工業(株)、1948年に東京オイルシール工業(株)と社名変更)
- 1941 ■ NOK 神戸に日本ベアリング製造(株)を設立(資本金18万円)
(1942年に日本ユージー工業(株)、1944年に日本油止工業(株)と社名変更) ①
- 1951 ■ NOK 東京オイルシール工業(株)と日本油止工業(株)が合併し、
日本オイルシール工業(株)に社名変更(資本金7百万円)
- 1954 ■ NOK 本社および東京工場を東京都大田区に移転



- 1970 ■ NOK 熊本県阿蘇町(現:阿蘇市)に熊本工場を建設
- 1971 ■ EKK 岡山県高梁市に岡山工場を建設
- MEK 茨城県稲敷郡笠崎村(現:つくば市)に南茨城工場を建設 ⑥
- UMT 日本オイルシール工業(株)(現:NOK(株))の北茨城工場として建設 ⑦
- 1973 ■ NOK シンガポールに現地資本と合併でシンガポール オイルシール Co., Pte. Ltd.を設立 ⑧
- UMT 日本オイルシール工業(株)が合成化学製品の研究・開発・製造を目的とし、
子会社 正和化成(株)を設立し、北茨城工場を吸収
- 1974 ■ NOK 静岡県小笠町(現:菊川市)に東海工場を建設
- 1976 ■ NKL 日本オイルシール工業(株)が子会社 NOKクリューパー(株)を設立し、
西ドイツのクリューパー社の特殊潤滑剤を輸入・販売開始
- 1978 ■ NOK 韓国の平和オイルシール工業(株)に資本参加
- EKK 日本シールオール(株)をイーグル工業(株)に社名変更
- MEK 茨城県鹿島郡波崎町(現:神栖市)に子会社 鹿島金属工業(株)を設立
- 1979 ■ EKK 台湾に関係会社 新石股份有限公司および新鷹精密股份有限公司を設立
- UMT 日本メクトロン(株)が正和化成(株)を吸収合併



1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

- 1960 ■ NOK 西ドイツのカール・フロイデンベルグ社と資本提携 ②
- NOK 神奈川県藤沢市に藤沢工場を建設
- 1961 ■ NOK 東京証券取引所、名古屋証券取引所に上場
- NOK 本社を東京都中央区に移転
- 1963 ■ NOK 佐賀県中原町(現:みやき町)に佐賀工場を建設
- 1964 ■ EKK 日本オイルシール工業(株)がアメリカのシーロール社と
メカニカルシールに関する合併契約を締結し、
日本シールオール(株)(現:イーグル工業(株))を設立 ③
- 1965 ■ EKK 埼玉県入間郡坂戸町(現:坂戸市)に埼玉工場を建設
- 1966 ■ NOK 本社を東京都港区に移転 ④
- 1967 ■ NOK 静岡県相良町(現:牧之原市)に静岡工場を建設
- 1968 ■ NOK アメリカにNOK-USA, Inc.を設立(1980年にNOK Inc.と社名変更)
- NOK 福島県福島市に福島工場を建設 ⑤
- 1969 ■ MEK 日本オイルシール工業(株)がアメリカのロジャース社と
技術提携契約を締結し、子会社 日本メクトロン(株)を設立



- 1980 ■ NOK 増資(7,599百万円)
- 1981 ■ NKL 茨城県北茨城市に北茨城工場を建設
西ドイツのクリューパー社製品の内製化と開発を開始 ⑨
- 1982 ■ EKK 東京証券取引所に上場 ⑩
- 1984 ■ NKL 西ドイツのクリューパー社の技術導入により自動車部品の
コーティングの塗料生産と加工・販売を開始
- 1985 ■ NOK 日本オイルシール工業(株)をNOK(株)に社名変更
- 1986 ■ MEK 台湾に子会社 旗勝科技股份有限公司を設立 ⑪
- 1987 ■ NOK 福島県二本松市に二本松事業場を建設
- EKK インドネシアに子会社
PT. イーグル インダストリー インドネシアを設立
- EKK 韓国に関係会社 NOK イーグル コリア Co., Ltd.
(現:NEK Co., Ltd.)を設立
- 1988 ■ NOK タイに子会社 タイNOK Co., Ltd.を設立
- EKK タイに子会社 イーグル インダストリー タイランド Co., Ltd.
(現:EKK イーグル タイランド Co., Ltd.)を設立
- 1989 ■ NOK アメリカに関係会社 フロイデンベルグ-NOK G.P.を設立 ⑫
- NOK 増資(15,911百万円)



- 1994 ■ MEK タイに子会社
メクテック マニュファクチャリング Corp. タイ Ltd.を設立
- 1995 ■ NOK 中国に関係会社 無錫恩福油封有限公司を設立
- NOK 中国の長春恩福油封有限公司に資本参加
- 1996 ■ NOK インドネシアに子会社 PT. NOKインドネシアを設立
- NOK シンガポールに子会社 NOKアジアカンパニー Pte. Ltd.を設立
- 1997 ■ MEK 中国に子会社 珠海紫翔電子科技有限公司を設立
- MEK 鹿島金属工業(株)を吸収合併
- 1998 ■ EKK イーグル工機(株)とイーグル精密(株)を合併し、
新潟イーグル(株)(現:イーグルブルグマンジャパン(株))を設立
- EKK フランスに関係会社 イーグル ヴィツェンマン S.A.S.
(現:イーグル インダストリー フランス S.A.S.)を設立

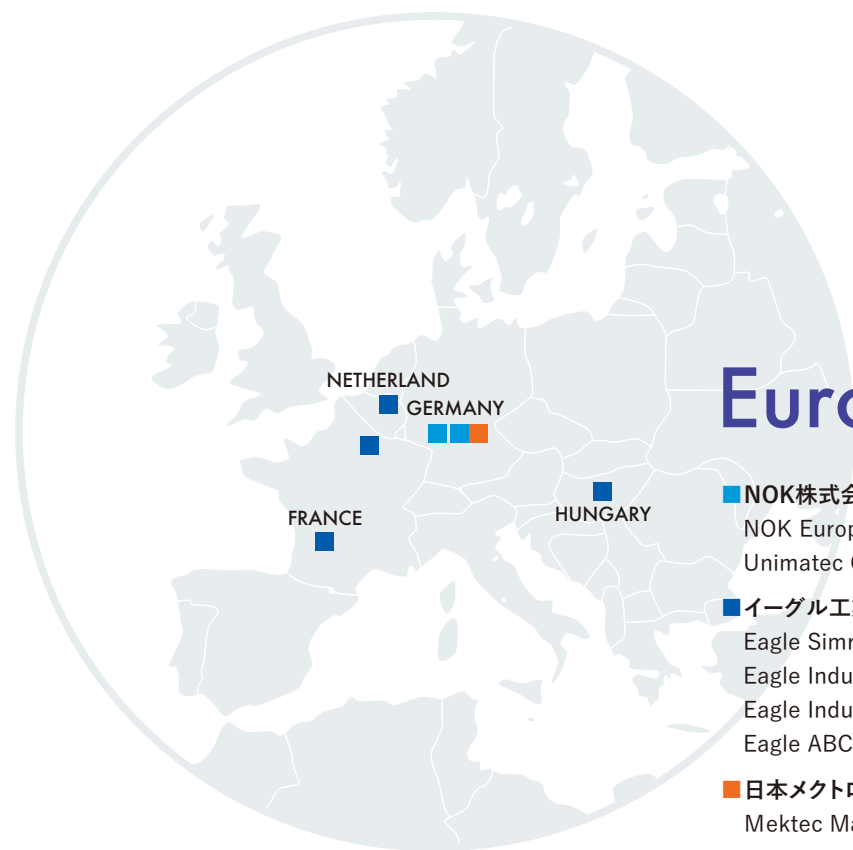
- 2010 ■ MEK フロイデンベルグ メクテック Europa GmbHの株式を取得し、
メクテック Europe GmbHとして子会社化
- UMT 加工品事業をNOK(株)に移管
- 2011 ■ MEK NOK(株)よりHDDおよびモバイル機器向け精密部品事業を譲渡
- 2012 ■ NOK 韓国にPyunghwa NOK Drive Train Co., Ltd.を設立 ⑮
- EKK 子会社 KEMEL(株)(現:船用事業部)を吸収合併
- EKK メキシコにEKK イーグル インダストリー メキシコ S.A. de C.V.を設立
- 2015 ■ EKK フランスのABC テクノロジー S.A.S. (現:イーグル ABC テクノロジー S.A.S.)を子会社化
- 2017 ■ MEK ベトナムに子会社 メクテック マニュファクチャリング Corp. ベトナム Ltd.を設立 ⑯
- 2019 ■ EKK 研究開発拠点として中国に子会社 伊格尔密封研究(无锡)有限公司を設立



- 2000 ■ NOK インドに関係会社
シグマ フロイデンベルグ NOK Pvt. Ltd.を設立
- 2001 ■ MEK タイに子会社 NOKプレジジョン コンポーネント タイ Ltd.
(現:メクテック プレジジョン コンポーネント タイ Ltd.)を設立
- 2002 ■ NOK 中国に子会社 恩欧凱(無錫)防振橡膠有限公司
(現:恩欧凱(無錫)防振技術有限公司)を設立
- EKK 中国に子会社 伊格尔机械密封有限公司を設立
- MEK 中国に子会社 蘇州紫翔電子科技有限公司を設立
- UMT 日本メクトロン(株)から独立し、
NOK(株)の子会社としてユニマテック(株)を設立
- 2003 ■ NOK 石野ガasket工業(株)の株式を取得し子会社化
- NOK 増資(23,335百万円)
- MEK 茨城県牛久市に奥原工場(現:牛久事業場)を建設
- 2004 ■ NOK ベトナムに子会社 ベトナムNOK Co., Ltd.を設立
- EKK (株)コベルコ・マリンエンジニアリング(現:船用事業部)の株式を取得し子会社化
- SZT NOK(株)が北辰工業(株)の株式を取得し子会社化
- 2005 ■ NOK 神奈川県藤沢市に湘南開発センターを建設 ⑬
- EKK 一般産業機械業界向けメカニカルシール等について、
ドイツのブルグマン・インターナショナル社との事業合併を契約
- SZT NOK(株)が日東工業(株)の株式を取得し子会社化
- 2006 ■ SZT ベトナムに北辰工業(株)の子会社 北辰ベトナム Co., Ltd.を設立
- UMT シンガポールに子会社 ユニマテック シンガポール Pte. Ltd.を設立 ⑭
- 2007 ■ SZT 北辰工業(株)と日東工業(株)が合併し、NOK(株)の子会社としてシンジーテック(株)を設立
- 2009 ■ EKK イーグル シールズ アンド システムズ インディア Ltd.とブルグマン インディア Pvt. Ltd.を
合併し、イーグルブルグマン インディア Pvt. Ltd.に社名変更
- EKK オランダのジムラックス B.V. (現:イーグル ジムラックス B.V.)を子会社化



グローバル展開するNOKグループ



Europe

- **NOK株式会社**
NOK Europa GmbH / ドイツ
Unimatec Chemicals Europe GmbH / ドイツ
- **イーグル工業株式会社**
Eagle Simrax B.V. / オランダ
Eagle Industry France S.A.S. / フランス
Eagle Industry Hungary Kft. / ハンガリー
Eagle ABC Technology S.A.S. / フランス
- **日本メクトロン株式会社**
Mektec Manufacturing Corporation Europe DE GmbH / ドイツ

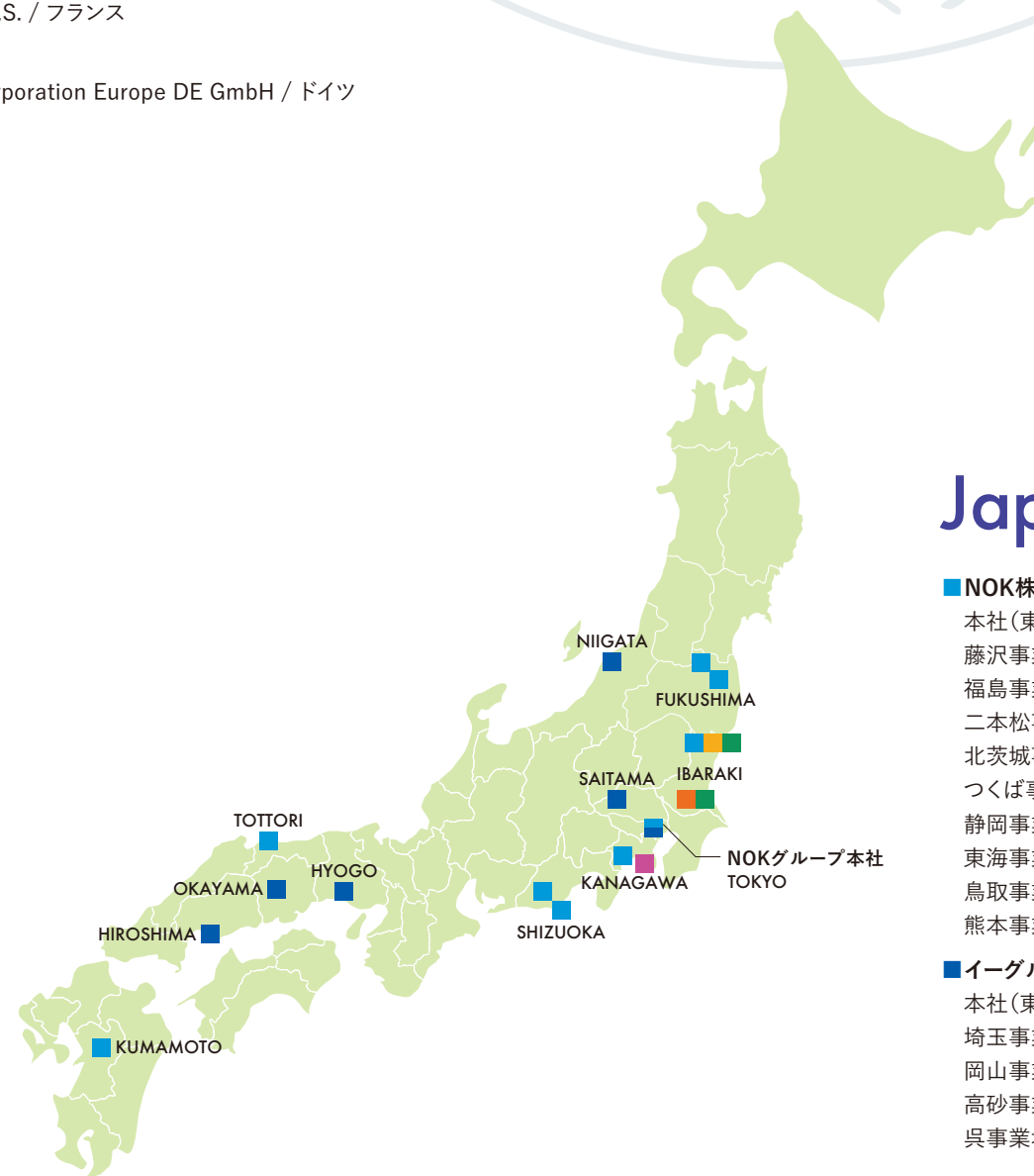


Asia

- **NOK株式会社**
Freudenberg-NOK Pvt. Ltd. / インド
Thai NOK Co., Ltd. / タイ
NOK Asia Company Pte. Ltd. / シンガポール
PT. NOK Indonesia / インドネシア
Vietnam NOK Co., Ltd. / ベトナム
無錫恩福油封有限公司 / 中国
NOK(Wuxi) Vibration Control China Co., Ltd. / 中国
長春恩福油封有限公司 / 中国
恩福商業(上海)有限公司 / 中国
NOK Freudenberg Hong-Kong Ltd. / 中国
平和オイルシール工業株式会社 / 韓国
- **イーグル工業株式会社**
EagleBurgmann India Pvt. Ltd. / インド
EKK Eagle Products India Pvt. Ltd. / インド
EKK Eagle(Thailand) Co., Ltd. / タイ
PT. Eagle Industry Indonesia / インドネシア
伊格尔机械密封(無錫)有限公司 / 中国
新鷹精器股份有限公司 / 台湾
NEK Co., Ltd. / 韓国
- **日本メクトロン株式会社**
Mektec Manufacturing Corporation(Thailand) Ltd. / タイ
Mektec Precision Component(Thailand) Ltd. / タイ
NOK Precision Component Singapore Pte. Ltd. / シンガポール
珠海紫翔電子科技有限公司 / 中国
蘇州紫翔電子科技有限公司 / 中国
旗勝科技股份有限公司 / 台湾
Mektec Manufacturing Corporation(Vietnam) Ltd. / ベトナム
- **シンジータック株式会社**
Synztec (Malaysia) Sdn. Bhd. / マレーシア
Synztec Vietnam Co., Ltd. / ベトナム
新智德精密零件(深圳)有限公司 / 中国
新智德精密零件(上海)有限公司 / 中国
- **ユニマテック株式会社**
Unimatec Singapore Pte. Ltd. / シンガポール

North America

- **NOK株式会社**
Freudenberg-NOK General Partnership / アメリカ
- **イーグル工業株式会社**
EKK Eagle America, Inc. / アメリカ
EKK Eagle Industry Mexico S.A. de C.V. / メキシコ



Japan

- **NOK株式会社**
本社(東京都港区)
藤沢事業場/湘南開発センター(神奈川県藤沢市)
福島事業場(福島県福島市)
二本松事業場(福島県二本松市)
北茨城事業場(茨城県北茨城市)
つくば事業場(茨城県つくば市)
静岡事業場(静岡県牧之原市)
東海事業場(静岡県菊川市)
鳥取事業場(鳥取県西伯郡)
熊本事業場(熊本県阿蘇市)
- **イーグル工業株式会社**
本社(東京都港区)
埼玉事業場(埼玉県坂戸市)
岡山事業場(岡山県高梁市)
高砂事業場(兵庫県高砂市)
呉事業場(広島県呉市)
- **イーグルブルグマンジャパン株式会社**
本社(東京都港区)
新潟事業場(新潟県五泉市)
埼玉事業場(埼玉県坂戸市)
- **日本メクトロン株式会社**
本社(東京都港区)
牛久事業場(茨城県牛久市)
- **シンジータック株式会社**
本社(東京都港区)
横須賀事業場(神奈川県横須賀市)
- **NOKクリューバー株式会社**
本社(東京都港区)
北茨城工場(茨城県北茨城市)
- **ユニマテック株式会社**
本社(東京都港区)
第一工場(茨城県北茨城市)
牛久事業所(茨城県牛久市)



会社概要

商号

NOK株式会社

設立

1939年12月2日

本社所在地

〒105-8585
東京都港区芝大門1丁目12番15号

ホームページ

<https://www.nok.co.jp/>

資本金

23,335百万円

発行可能株式総数

600,000,000株

発行済株式総数

173,138,537株

上場証券取引所

東京証券取引所市場第一部
(証券コード:7240)

事業内容

シール製品・工業用機能部品・油空圧機器・プラント機器・原子力機器・合成化学製品・
エレクトロニクス製品・その他の製造、仕入、輸入、販売ならびに機械器具設置工事等、
上記に付帯する業務